

和田家牛首留番所文書

この資料群は、古くから荻町の有力者であった和田家が、白川郷への人や物の出入りを規制する口留番所の監督をしていたことに関する記録である。こうした番所は、江戸幕府が白川郷周辺を直轄地とした 1692 年以降、近隣の藩との境界に設けられた。

番所の役人の仕事は、主に国境を越えた物資の納税を確認することであった。当初は幕府が直接管理していたが、18 世紀後半に行われた政府の権威復活と財政健全化のための改革により、コスト削減のために江戸から派遣されていた役人が現地で雇われた役人に変更されたという。

18 世紀後半、白川北東部の牛首（うしくび）番所の管理を任されたのは、世襲の名主・和田家であった。役人になるためには、当主は武士に昇格し、武器を持ち、名字を名乗る権利が与えられた。和田家は、1867 年に徳川幕府が倒されるまでその地位を維持した。番所に関する記録は、当時の荻町の経済状況を知る上で貴重な資料となっている。